SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

V
地域交流(平成28年後期・29年前期)(年次報告(平成28年度後期・29年度前期))

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2018-03-29
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 案野, 香子, 袴田, 麻里
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024881

V　地域交流（平成28年後期・29年前期）

案野　香子／袴田　麻里

平成28年10月12日㈬、静岡県立浜松北高校国際科の生徒40名が授業の一環として来校し、留学生と英語で交流した。

10月15日㈯、ユネスコ国際交流事業に、韓国、インドネシアなどアジアの学生合計4名が参加し、日本人の子どもたちと交流を深めた。

10月16日㈰、静岡国際交流会館の所在する小鹿三丁目地区の一員として、5名の留学生が静岡市の運動会に参加した。

10月30日㈰に、榛葉鉄工所株式会社からのご招待により、浜松キャンパスの留学生、外国人研究者が家族ともに交流会に参加し、つま恋リゾートでレクリエーションを楽しみながら社員の方々と交流した。つま恋リゾート閉園に伴い、これが最後の交歓会となった。

11月18日㈮から20日㈰まで、浜松キャンパスの留学生15名（インド5、インドネシア5、タイ1、中国1、バングラデシュ1、ベトナム1、マレーシア1）が、浜松市内の11家庭でホームステイし、日本の生活様式や習慣、文化を体験した。

11月20日㈰に、静岡県留学生支援ネットワークが国際交流バスツアーを実施し、静岡大学からは留学生、日本人学生合わせて40名ほどが参加した。

11月26日㈯に、静岡市青少年育成課との共催で、ホームビジットが行われ、10名の留学生が参加し、学外の日本人の家庭で新鮮な一日を過ごした。

12月より、静岡聖光学院中学校の英語クラスのTAとして、7名の留学生が毎週訪れ、プレゼンテーションや英語を通した社会学習の支援を行った。

12月7日㈬、1月25日㈬に静岡大学付属浜松中学校3年生の英語授業に、バングラデシュ、インド、インドネシアなどの留学生23名が参加し、中学生と日本や母国について英語で話し合った。

12月17日㈯・18日㈰に清水和田島自然の家で行われた「話っ、輪っ、和っ！」（主催：静岡県留学生等交流推進協議会）に留学生16名、日本人学生30名が参加し、他大学の学生と話し合いやゲーム、食事などをともにして交流を深めた。

平成29年1月14日㈯に、NPO法人浜松日中文化交流会主催の春節パーティーが開催され、浜松キャンパスの中国人留学生や研究者、およびその家族約40名が招待され、ゲームや歌、楽器演奏などを通して、お互いの交流を深めた。

1月19日㈭、静岡大学の交流サークルONES（ワンズ）のイベントに留学生3名が参加し、地元の小学生と交流を深めた。

2月13日㈪に、全学教育科目「日本語Ⅳ」の受講生9名が、浜松国際交流協会と協力して、県内企業との交流会を企画した。8社の参加を得て、15名の留学生が日本企業や留学生の雇用について話をうかがった。

4月18日㈫、7月11日㈫の両日、県立川根高等学校と静岡大学（静岡キャンパス）を遠隔通信システムで結び、1年生特進クラス10名と静大留学生4名が、英語の授業を行った。

5月20日㈯に、日本平において、富士山を眺めながら15名の留学生が茶摘みを行った。

またお茶の葉の天ぷらもいただくことができ、全員初めての体験を満喫した。

5月28日㈰国際ソロプチミスト浜松からのご招待を受け、浜松キャンパスの留学生14名が浜松市松韻亭で茶会を体験した。

6月8日㈭に静岡国際経済振興会「外国人留学生企業交流会」を浜松キャンパスで実施し、修士、博士の留学生を中心に約50名が18社の人事担当者と交流した。

同じく、6月8日㈭にふじのくに地域・大学コンソーシアムと協働で「留学就職支援講座」のプレ講座を実施し、30名ほどの留学生が受講登録をした。

6月24日㈯浜松キャンパスの同窓会組織「浜松工業会」主催のランチミーティングに留学生5名が参加し、卒業生と交流しながら日本企業や日本社会への理解を深めた。

7月29日㈯に、オマハ市からのガールスカウトが茶摘み体験をするため、そのための英語通訳として、6名の留学生が参加し、一緒に茶摘みをしたり、お茶を味わったりした。

8月25日㈭に、付属浜松中学校生徒による企画「Japanese Confection」に留学生5名が参加し、田町梅月のご主人の指導のもと、中学生といっしょに練り菓子を作った。

株式会社榛葉鉄工所との留学生交歓会

袴田　麻里

平成28年10月30日㈰、株式会社榛葉鉄工所会長榛葉正志様より浜松キャンパスの外国人留学生・研究者とその家族65名が、工学部留学生担当教員、国際交流センター教員とともに、ヤマハリゾートつま恋に招待をいただき、スポーツや昼食会などを通して、同社社長榛葉貴博様をはじめ社員の皆様と交流した。留学生らは日常の勉学生活を離れ、自然を楽しみながら日本人と話し、日本と日本文化に対する理解を深めることができた。平成2年度からの交流は、以下の表の通りである（経緯については、国際交流センター紀要第4号（2014）に掲載）。

表：株式会社榛葉鉄工所からのご招待

		静岡大学参加者数	場　所	備　考	
1	1990.07.28.㈯	76	つま恋（掛川市）		会社経費
2	1991.07.27.㈯	82	つま恋（掛川市）		会社経費
3	1992.07.25.㈯	91	つま恋（掛川市）		会社経費
4	1993.07.24.㈯	98	つま恋（掛川市）		会社経費
5	1994.07.23.㈯	93	つま恋（掛川市）		会社経費
6	1999.07.31.㈯	91	つま恋（掛川市）		会長自費
7	2000.07.27.㈯	94	つま恋（掛川市）		会長自費
8	2001.07.28.㈯	90	つま恋（掛川市）		会長自費

		静岡大学参加者数	場　　所	備　　考	
9	2002.07.20.(土)	105	つま恋（掛川市）		会長自費
10	2003.08.02.(土)	107	つま恋（掛川市）		会長自費
11	2004.07.10.(土)	131	浜名湖ガーデンパーク	浜名湖花博・大学法人化、学長より感謝状	会長自費
12	2005.07.30.(土)	81	つま恋（掛川市）		会長自費
13	2006.07.15.(土)	75	つま恋（掛川市）		会長自費
14	2007.07.21.(土)	66	つま恋（掛川市）	興学長・中村理事参加	会長自費
15	2008.08.02.(土)	72	つま恋（掛川市）	興学長参加	会長自費
16	2009.08.01.(土)	53	つま恋（掛川市）	興学長・柳沢工学部長参加	会長自費
17	2010.07.25.(日)	77	つま恋（掛川市）	伊東学長・東郷工学部長参加	会長自費
18	2011.07.09.(土)	73	つま恋（掛川市）	伊東学長・村井センター長参加	会長自費
19	2012.08.26.(日)	41	つま恋（掛川市）	浅利副学長・佐古工学副部長参加	会長自費
20	2013.07.27.(土)	33	つま恋（掛川市）	伊東学長・鈴木センター長参加、学長より感謝状	会長自費
21	2014.07.26.(土)	44	つま恋（掛川市）	鈴木センター長・佐古工学部長参加	会長自費
22	2015.10.25.(日)	65	つま恋（掛川市）	中山工学副部長・グローバル企画推進室土生教授参加	会長自費
23	2016.10.30.(日)	58	つま恋（掛川市）		会長自費

平成28年度の昼食会において、平成28年末にヤマハリゾートつま恋が閉園すること、またこれまで自費でご招待をくださっていた会長の榛葉正志様が喜寿を迎えられることから、平成28年度の開催をもって留学生交歓会を最後としたいというご挨拶をいただいた。平成2年度からこれほど長きにわたって交流を続けてくださった企業はない。榛葉鉄工所の開かれた社風と世界的な視野によるものだと感じている。この交歓会で榛葉鉄工所という企業を知り、社風の温かさに惹かれて入社した馮波氏（2001年理工学研究科後期課程修了）は、現在SHINBA IRON WORKS（THAILAND）CO., LTD.の社長として活躍している。また、2013年には創造科学技術大学院自然科学系教育部のスリランカ人留学生2名が交歓会参加で業務内容や社風を知り、インターンシップを希望した際には、2名の受入れ、2014年からは正式に採用してくださった。2名とも、家族の都合等で退社し帰国しているが、近い将来、日本企業で再び職を得ることを希望しており、榛葉鉄工所での就業経験が非常に豊かなものであったことがうかがえる。

日本政府が留学生30万人計画を発表して以降、留学生受入れ機関は留学生の就職支援を視野に入れ、これまで以上に日本人、日本文化への理解を促す方策を探ってきた。しかし

ながら、その効果はまだ限定的だと言わざるを得ない。その一因として留学生が学外で日本社会を支える人たちを知る機会が限られており、日本の産業や企業文化を理解しにくいことが挙げられる。23回にわたって社員の皆様との交流を通して、大学とは全く違うアプローチで日本を知る機会を与えてくださった、榛葉会長と企画・運営を担当くださった社員の皆様に改めて心から感謝したい。